

2022 年 フランス海外スターージュ報告書

フランス語教育国内スターージュ運営委員会編

本報告書は、2022年3月17日～20日に実施された日本フランス語フランス文学会、日本フランス語教育学会、在日フランス大使館主催のフランス語国内スタージュの修了者のうち、2022年8月にフランス（ブザンソン）で実施された教員研修コースに参加した方々によるフランス海外スタージュの報告書です。

ブザンソンにて行われたフランス語教員研修報告

石井 咲

本文書は、ブザンソンのフランシュ＝コンテ大学付属応用言語センター（Centre de linguistique appliquée, 以下 CLA と略記する）にて 2022 年 8 月 1 日から 11 日まで実施されたフランス語教員研修にかんする報告書である。

1. 概要

CLA 主催の本研修は、夏季休業中のフランシュ＝コンテ大学のキャンパスで行われた。研修生はモジュールと呼ばれる授業を 1 日 3 つ受講するのに加え、期間中に開講されるフォーラムを 3 つ以上参加する必要があるがあった。同時時間帯に 2 つのモジュールないしフォーラムが開講されたため、研修生は事前にそれぞれの授業内容を確認した上で希望するものを選択した。以下は、報告者が受講した全講座である。

モジュール（各講座、全 8 回）

- ・ Favoriser les pratiques ludiques et créatives
- ・ Pratique de l'écriture créative
- ・ Favoriser les interactions à l'oral

フォーラム

- ・ Visite médiathèque
- ・ Stratégie d'apprentissage et Gestion du stress（全 2 回）
- ・ Votre voix, une amie à protéger（全 3 回）

15 を超える国から 40 人あまりがこの研修に参加し、その多くはフランス語教員であった。フランス語を母国語とする研修生も複数名参加していたこともあり、全体的に研修生のフランス語のレベルは高かった。そのため、授業が停滞することなく、数多くの実践方法を学ぶことができた。また、研修生それぞれの教歴や指導環境が異なるため、授業内外で行われた参加者間での意見交換も有益であり、総合的に大変意義深い滞在になった。

2. モジュールについて

① « Favoriser les pratiques ludiques et créatives » 担当講師：Mme Francine BEISSEL

このモジュールでは、身体を動かし、学習者間のコミュニケーションを促進し、活気ある授業空間を作り出すための活動を学んだ。講師の Beissel 氏は、教員と学習者がともにダイナミックに身体を動かし、視線や笑みを交わすことが、集団で外国語を学ぶにあたって肝心であると述べていた。報告者は、その重要性を研修初日に理解することになった。初回の授業が始まる前の教室には、一種の緊張感と気詰まりさえ感

じる雰囲気があった。そこにすかさず Beissel 氏が複数の « brise-glace » (英語ではアイスブレイクと呼ばれる、教員・学生間のコミュニケーションのきっかけを作る活動)を紹介し、実際に研修生に体験させた。これにより、我々は不要なストレスから解放され、それと同時に研修生同士が協力しあう授業環境もまた自ずと整えられたのだ。この活動は、教員と学習者の両者にとって有益であるため、報告者も今後は年度初めや長期休業後の新学期の授業で取り入れてみたい。

また、Beissel 氏は演劇にも造詣が深いことから、俳優の稽古などで行われるウォームアップをフランス語学習の活動に適用させていた。Beissel 氏は、それぞれの活動を紹介するとき、それらの教育的効果と有用性について常に言及していた。彼女の柔軟性と、経験の蓄積があってこそそのその手法には目から鱗であった。

② « Pratique de l'écriture créative » 担当講師：Mme Francine BEISSEL

このモジュールの主眼は、文章作成の実践の複数化であり、実際に全 8 回の授業内では 20 を超える活動が紹介された。報告者は、大学 1 年生を対象にした授業で、ペアでのライティング・アクティビティを定期的に取り入れているため、このモジュールの受講を強く希望していた。

授業内では、個人での文章作成だけでなく、ペア、グループで協力してひとつのテキストを書くという活動が紹介された。Beissel 氏にとって授業内で行う文章作成の活動とは、単に学習者がテキストを書くことだけを意味するのではない。それは、文章を作成し、それを各自読み上げ、学習者間で実践の成果を共有することまでを指すというのだ。報告者もその他の研修生とともにこれらの活動を試してみたところ、ダイナミックな交流が生まれたことに驚いた。また、Beissel 氏は授業内で文章の添削はほとんど行わず——これはもちろん多くの研修生がフランス語に堪能だったこともあったが——、それよりもむしろ学習者間の知識・意見の共有という水平方向の交流を促していた。この手法は大変印象的であった。

とりわけ興味深かった活動は、文学作品を扱ったそれである。例としては、レーモン・クノーのテキストの一節に、学習者が続いて自ら物語を書き足すという « À la manière de Queneau » というものや、ジョルジュ・ペレックのインタビュー動画 « 25 choses à faire avant de mourir » を観た後に、同様のテーマに沿って研修生もまた文を書くというものが挙げられる。報告者は、フランス語の授業内で、文学テキストを効果的に取り入れることがなかなかできず、学習者にとって文学とは敷居が高いものではないかと考えてしまう傾向にあった。このモジュールで、Beissel 氏の手法に多くを学んだ。今後、報告者もより柔軟性を持って仏作文の活動を導入してみたい。

③ « Favoriser les interactions à l'oral » 担当講師：Mme Caroline Langer

Langer 氏のモジュールでは、学習者の自発的な相互交流 (interactions) をいかに促進できるか、8 回の授業を通じて議論した。参加した研修生は、自国で行っている取り組みや直面した課題を積極的に共有し意見交換を行った。日本の大学で教えている

報告者もまた、しばしば学生間の発話を促すことに苦労していた。こうした問題に対する有効なアプローチはないかと議論が生まれ、貴重な意見をもらうことができた。

そのほかにも、この授業ではグループによる作業が多く取り入れられ、研修生自ら相互交流の重要性を認識する構成がとられていた。具体的な活動のひとつには、指導案の作成が挙げられる。各グループで対象とする学習者のレベルや到達目標などを設定し、それに合わせた対話文を作成した。その後、それをもとにして、実際にフランス語ネイティブと動画ないし音声を撮影し、共有するというものである。報告者は2名のイラン人研修生とともに以下のような指導案を作成した。

Fiche pédagogique - prise de rdv chez un médecin

Saki, Maryam, Behrad

Objectif principal	Linguistique : les formules de la prise de rendez-vous
Objectif secondaire	Interaction au téléphone
Thème de conversation	Prise de rendez-vous chez médecin
Niveau	B1
Types d'activités	Un coup de téléphone
Type de discours	Informel
Type de français	Une secrétaire française, une cliente non native
Difficultés éventuelles	Formule de politesse, les chiffres (fixer les heures de rendez-vous)
Durée	55 s

Transcription d'audio

A : Bonjour, cabinet de Docteur Perrier.
 B : Bonjour. Je voudrais prendre un rendez-vous avec le docteur Perrier, s'il vous plaît.
 A : Oui, vous êtes une patiente du docteur ?
 B : Non, c'est la première fois.
 A : J'aurais des disponibilités à partir de la semaine prochaine. Ça vous convient ?
 B : Écoutez, j'ai terriblement mal au ventre. Serait-il possible d'avoir un rendez-vous aujourd'hui ?
 A : Désolée, mais aujourd'hui c'est complet. Par contre, si vous passez demain tôt dans la matinée, il est possible qu'il y ait des annulations.
 B : Hmmmmmm, d'accord. Je viendrai demain matin à 7h30.
 A : C'est à quel nom ?
 B : Au nom de ISHII.
 A : Pouvez-vous épeler, s'il vous plaît ?
 B : Oui, bien sûr, I-S-H-I-I.
 A : Bien, c'est noté.
 B : Merci, au revoir.

その他のグループは、書店や観光案内所などでの会話を作成し、実際にブザンソンにある店を訪れて店員との会話を撮影していた。こうした指導案と視聴覚資料は、参加者全員に Moodle および Google Drive で共有され、現在でもアクセスすることが可

能である。帰国後、報告者は実際にこの資料を用いて授業を行った。資料内で使用されている文法の確認や表現の聞き取り学習に役立つだけでなく、フランコフォンによる会話は、発音やアクセントの差異を提示するのにも有用であった。

3. フォーラムについて

① « Visite médiathèque »

CLA の図書館には、FLE にかんする膨大な数の蔵書があるだけでなく、デジタル資料もまた存在する。FLE の理論書や、文法の練習問題、遊戯性を取り入れた言語活動を紹介する書籍や指導案など、日本ではなかなか入手することのできない資料は大変魅力的であり、これらを読むだけで容易に 1 週間を図書館で過ごすことができるのではないかという印象を受けるほどであった。

しかしながら、一点心残りがある。図書館は 8 時に開館し 18 時に閉館する。また、休日も終日閉館していた。そのため、報告者は平日のフォーラム終了後に図書館へ向かおうと試みたが、本を閲覧する時間は限られてしまい、滞在中は図書館を効果的に利用することが叶わなかった。本研修は、参加するモジュールによっては、授業だけでなく、授業外の課題も出されるため、滞在中は想像以上に忙しかったため、今後この研修に参加し図書館を利用したい方は、貸し出しサービスを計画的に使用すると良いだろう。

② « Stratégie d'apprentissage et Gestion du stress »

« Votre voix, une amie à protéger »

担当講師 Mme Mariella Vitorou

Vitorou 氏によって行われた 2 種類のフォーラムは、〈教員の精神と身体〉が大きなテーマとされていたように思われる。一般的に教員は授業中に、複数の学習者を前にして一人で声を発し続け、また常に学習者から見られている状態にあるといえるだろう。講師によると、このとき教員の心身には多かれ少なかれストレスが生じている。教員に生じる緊張やストレスは、しばしば軽視されてしまうくらいにあるといえるが、Vitorou 氏はこれに着目し、その緩和法や、あるいは反対にその緊張状態を有効活用する方法を紹介した。

« Stratégie d'apprentissage et Gestion du stress »で導入された実践方法の中で、興味深かったのは、心身の緊張と緩和を意図的に誘発する活動である。方法としては、Vitorou 氏が研修生に対して、〈リラックスできる風景〉と〈ダイナミックな気分になるそれ〉についてアンケートをとる。その後、研修生は輪になって目を閉じた状態で深呼吸し、その間、講師は、研修生が挙げた〈リラックスできる風景〉を優しげで楽しげな声で読み上げる。これが 2 分程度経過する頃には、研修生のほとんどは緊張が解けていた。その次に、Vitorou 氏が〈ダイナミックな気分になる風景〉を大きな声で明快に読み上げる。すると、それを聞く研修生の頭は活性化され、活動が終わる頃には、まるで眠りから覚めたときのような爽快な状態に変わっていた。これは、教員に対してだけでなく、眠気に襲われ、授業に集中できない学習者などに対しても効果的だという。

また、「*Votre voix, une amie à protéger*」において研修生は、講師からそれぞれ声の出し方や姿勢、歩き方について指導を受けた。このフォーラムは、人の性格や精神状況が反映される「声」と「身体」という要素に再注目する良い機会となった。

4. その他

① Campus France との連絡について

今回の滞在に関する資料は、出発に先立って Campus France から在日フランス大使館の萩尾英理子氏を經由して送られてきた。資料内には、フランス到着後に必要な手続き（奨学金の受け取りなど）や連絡先について記載されていた。

奨学金を受け取るためには、フランスに入国後、日本からフランスまでの航空券とパスポートの写真を添付したメールを Campus France へ送る必要があった。その後、担当者から Western Union の支店または郵便局で奨学金を引き出すことができる旨を知らされた。報告者は後者にてこれを受け取った。Campus France の担当者の迅速な対応のおかげで、この手続きにかかった日数は全部で4日程度であった。

② 日本とフランスのコロナウイルス感染対策について

本研修は、いまだコロナウイルスが流行している中実施された。出国にあたって、ワクチン接種証明書、または PCR 検査の陰性証明書の提示が必要であり、同時に欧州デジタル式旅客位置情報フォームの入力が必須であった。日本外務省やフランス大使館のサイトで最新の情報を確認しつつ、出発前には共に研修に参加する友人と連絡を取り合い、これを共有した。

現地では、ワクチン・パスポートは廃止され、公共交通機関に乗る際を除いてほとんどの人がマスクを着用していなかった。ブザンソンの医療にかんしては、CLA より事前にメールで送られてきたパンフレットや資料に記載してあったため、有事の際の備えになった。また、日本に帰国するには、出国から72時間以内のPCR検査と厚生労働省が指定する陰性証明書の提出が義務付けられていた。

5. 終わりに

この滞在では、FLE のメソッドやテクニックを学ぶだけでなく、デジタル資料を活用してフランス語教育を行う利点を認識することができた。モジュールおよびフォーラムは、講師の綿密な準備とあたたかな人柄により、常に活気に溢れていた。彼女たちの授業運営に学ぶところは多く、報告者もまた授業の進め方について再考する必要があると考えるに至った。

また、それと同時に報告者は、講師陣および各国からの研修生とフランス語という共通語を用いてコミュニケーションをとることで、外国語で他者と話すよろこびを改めて感じた。これは、外国語学習へのモチベーションを高めるために欠かすことのできない要素であると言えるのではないだろうか。報告者も担当する授業内で、学習者にこの学ぶよろこびと話すよろこびを感じてもらえるよう、本研修で学んだことを今

後の授業運営に活かしたい。

最後になるが、このような機会をいただくことができたのは、ひとえに在日フランス大使館——とりわけきめ細やかな配慮をしてくださった萩尾英理子氏——、日本フランス語フランス文学会、そして日本フランス語教育学会のみなさまのご支援によるものである。ここに深謝申し上げる。また、ブザンソンで実り多い時間を過ごすことができたのは、報告者と共に研修へ参加し、多くの刺激と示唆を与えてくれた2名の日本人研修生によるものだと考えている。ここに併せて御礼申し上げます。



多くの時間をともに過ごした Beissel 氏（中央）と研修生の友人



宿泊施設 Zenitude の程近くを流れるドゥー川

2022年ブザンソン CLA 夏季スタージュ報告

佐野有沙

2022年8月1日(月)～8月11日(木)、フランス東部ブザンソン市にて、フランシュ＝コンテ大学付属応用言語センター(CLA)主催のフランス語教員研修に参加した。ブザンソンは、ドゥー川にかこまれた風光明媚な地方都市で、ユゴアの生家やコレットの別荘が位置し、またスタンダール『赤と黒』の舞台であったことなどから、どこか文学の香りのする町であった。研修外でも出会いと発見にみちた約2週間の滞在の内容を、ここに報告します。

0. パリでの前泊、ブザンソンへ

8月1日からはじまる研修に向けて、パリでの1日ないし2日の前泊を選ぶことができた。宿泊先は北駅近くのHôtel Parisiana(朝食付き)。7月29日晩にシャルル・ド・ゴール空港に着いて1泊し、30日朝にほかのふたりの日本人研修生と合流、リヨン駅からブザンソン行きのTGVへ乗った。

1. 研修の概要

過去の報告書にもある通り、研修期間中は午前中に2つのモジュール、午後に1つのモジュールを選択して受講する。その後、任意でフォーラムに参加することができる(研修中最低3つを選択)。そのほか、映画上映会や美術館の無料見学、ペタンク体験、クルージング、ピクニック、週末の遠足など、さまざまな催し物が用意されていた。

一日のスケジュールの例：

時間	活動
8h30-10h00	モジュール1・Enseigner la grammaire autrement
10h30-12h00	モジュール2・Inverser la classe avec des ressources numériques
12h00-13h30	昼食休憩
13h30-15h00	モジュール3・Favoriser les interactions à l'oral
15h30-17h00	フォーラム・Visite de la médiathèque du CLA
18h00-20h00 頃	<i>Les Olympiades</i> (ジャック・オディアール『パリ13区』2021年)鑑賞

希望するモジュールおよびフォーラムは、出発前にオンラインで事前登録した。また研修開始後でも、事務方に頼めば、ほかのモジュールに移動したり、追加でフォーラムに参加したりすることもできるようだった。フォーラムはどれもおもしろそうだったので、体力的に厳しいかと思いつつすべて参加した。課外活動が思いのほか充実し

ていたこともあり、案の定フォーラムの時間帯はへばり気味だった。ちなみにわたしはすべてのモジュールが Caroline Langer 氏の受け持ちだった（事前登録の段階では、調べ不足だろう、担当者の名前はわからなかった）。日本でも教歴のあるベテラン講師で、自分のことはかならず Caroline とよびすてにするよう言う快活なマダムだ。

2. モジュールの詳細

参加した3つのモジュールそれぞれの概略と感想を記し、個人的に（大学の第二外国語教育という枠組みで）使えそうだと思ったツールやゲームを挙げておく。いずれのモジュールでも、実際にそれらを学習者の立場で体験できたことで、現実的に導入可能か否か想像でき、たいへん有意義だった。

① Enseigner la grammaire autrement

フランス語文法のより遊戯的・創造的な教授法を探るモジュール。以下で紹介するのは、日本の児童がやるような、いす取りゲームなどの遊戯に似たものが多い。そうした遊びをわたし自身、小学生時分大いに経験したものの、思えば学習と結びついたことはなかった。いっぽうで英語の個人塾では、中学生になっても、英単語のカルタ取りや、「We wish you a merry christmas」を歌いながらのプレゼント交換会などがあったことを思い出した。非伝統的なフランス語教授法を知るたびに、日本の、とくに大学の二外教育で、四技能のバランスのとれた発達がややもすると度外視され、初年度で単純過去まで行ったりするようなカリキュラム、また教科書の作りに、疑問は膨らんでくる。また Langer 氏が、文法学習においては「*répétition en spirale*」が重要だと、口ずっぱく言っていたのが印象的だ。グループ分けを無作為にしたいとき、これまでアルファベットが書かれたカードを裏にして配っていたのだが、単純に「*pomme, poire, pêche...*」などと言いながら振っていけば早い（かつちょっとしたリスニングの練習にもなる）といった気づきもあった。

Voki : <https://l-www.voki.com/>

オンライン上で思い思いのアバターを作り、それに自分で吹き込んだ声をしゃべらせる or 入力した文章を自動で読ませることができるツール。完成したアバターは、URL やメールで共有することができる。自己紹介をさせる、歴史上の人物の経歴を語らせる（ブッダ、シェイクスピア、アインシュタイン等から選べる）、友人や家族を紹介させる、余暇について話させるなど、活用範囲は広い。人前で話すのが苦手な学習者にとくに好まれる。

Padlet : <https://ja.padlet.com/>

知っている人が多いであろう、オンライン掲示板ツール。ブラウザ上に学習者それぞれが自由にポストイットを貼っていけるようなイメージで、操作性とデザイン性が抜群。投稿にはテキスト、URL、画像、ビデオ、描画、音声等を挿入でき、また各投

稿に対してコメント欄を解放することもできる。シェルフモードにして、語彙の復習をする（ex. 家にまつわる単語で、「salon」「chambre」「cuisine」「salle à manger」「salle de bain」「toilettes」「bureau」などとカテゴリーを設け、各欄に関連語のなにかしらを投稿させる）といった活用が考えられる。

jeu de conjugaison：学習者を輪にさせる。ボール（紙を丸めたものなどでよい）をもったひとりが、任意の主語人称代名詞と動詞の原形を言いながら、誰かに向かってボールを投げる（ex. « Je, lire »）。ボールを受けとった者が主語とともにその活用を答える（« Je lis »）。これの繰り返し。動詞を第1グループに限定する、時制を複合過去にするなど、活用のしかたは無限である。

jeu de chaises：中央に立ったひとりを囲んで、学習者は輪になって座る。中央のひとりが« J'aime... »と宣言する。それに対し同意見であった者だけが椅子を移動する。座れなくなったひとりが同様の宣言をする。この繰り返し。逆に好きではないことを言わせて否定文を練習する、昨日したことを言わせて複合過去を練習するなど、これも活用は無限。

Fais-moi un dessin！：学習者をペアにさせ、背中向きに座らせる。一方が、事前に描いたイラストをもとに、ある単純な風景を口頭で描写する（ex. « Au milieu, il y a une maison. A gauche de la maison, il y a un arbre. Au-dessus de la maison, il y a le soleil. »）。ペンと紙をもった片方が、聞き取った風景を描いていく。答え合わせで、両者のイラストが同じであれば成功。場所をあらわす前置詞の練習。

Portrait chinois：« Si j'étais un animal, je serais... » « Si j'étais un fruit, je serais... » « Si j'étais une couleur, je serais... »式のフレーズを通して、条件法・反実仮想の自然な定着をはかる遊び。学習者同士が各々のパーソナリティを知る機会にもなる。

jeu de vocabulaire：学習者を3つのグループに分ける。黒板を3つに仕切ってそれぞれに語彙のテーマを設ける（ex. « TERRE » « CIEL » « MER »）。よーいどんの合図で、各グループがテーマに関連する単語をできるだけ多く書いていく。時間内に一番多く書けたチームが勝利（綴り間違いやテーマとの不一致はノーカウント）。名詞に限定する、冠詞をつけさせるといった調整も可能。

Jacques Prévert « Déjeuner du matin »：« Il a mis le café / Dans la tasse »にはじまるジャック・プレヴェールの有名な詩を用いて、複合過去の理解・練習をする。習得段階では、自分の普段の朝食に内容を書き換えさせる、学習者同士で場面を演じさせるといった演習が考えられる。

研磨剤「Jex Four」のCM：<https://www.youtube.com/watch?v=RigJ3iovbEA>

« Avant, j'étais moche [...] Je l'ai rencontré, il a tout changé. »というフレーズのでてくる、古さもあいまって独特のユーモアがある研磨剤のCMを使って、半過去と複合過去の理解・復習をする。CMは非常に有効だと感じているので、レポートリーを増やしたい。

② Inverser la classe avec des ressources numériques

反転授業のメリットを知り、とくにデジタルツールとの相乗効果を探るモジュール。Langer氏はもちろん、ギリシャやイランなど、他国の研修生からの提案が非常に有益だった。モジュール1でもそうだったが、このように学ぶ者の楽しみに寄りそった、バラエティに富むツールが諸外国ではいくつもあるように思うのは、コロナ禍以後にはじまったことではなく、コロナ以前から教育そのものに——初等教育の段階から——日本よりはるかに自由と創造の余地があるからではないかと感じた。ただ反転授業のメリットは、日本の大学の二外教育の現状と照らしあわせた限り、かならずしも納得することはできなかった（語学学校など、モチベーションと時間の十分ある学習者において真価を発揮するのではないだろうか）。以下に紹介する2つのツールは、オンライン授業により適したものであるが、使い方によっては対面授業での活用も考えられる（いずれにしても、反転授業に限らない）。

QuiZinière : <https://www.quiziniere.com/> (チュートリアル：<https://www.youtube.com/watch?v=M6UgqLrJ8aQ>)

問題作成、配布、答案の受取り、添削、返却がすべてオンライン上で完結するツール。問題作成時のオプションの多さ（問題にはテキスト、音声、画像、描画、数式、ビデオを挿入でき、学習者の回答方法をテキスト、音声、画像、描画、穴埋め式、選択式、結びつけ式から指定することができる）、操作とデザインのシンプルさ、学習者がアカウント等を作る必要がないこと、そしてこれらがすべて無料でできることなどから、これに勝るオンライン教材作成・配信ツールにまだお目にかかったことがない（Kahoot!もすばらしいが、無料版で作れる問題の幅広さという点ではQuiZinièreが上回るかもしれない）。もちろん、毎授業QuiZinièreを使おうと思えば準備に膨大な時間がかかるが、一度完パケを作って再利用したり、あるいはとくに強化したい事項にだけピンポイントで使うなどすれば、十分に活用できるだろう。学習者が目や耳や手を動かして解く問題を、完全オーダーメイドで作れることが最大のメリットである。

Liveworksheets : <https://www.liveworksheets.com/> (チュートリアル：<https://www.youtube.com/watch?v=6zzo4C5dOUw>)

紙状の教材を使ってやっていた練習問題のアクティビティを、配布から返却までオンライン上で再現できる（学習者はオンライン化された問題に、キーボードやマウスやマイクを使って回答していく）ツール。一から教材をオンライン化するのはかなり煩

瑣そうなので、よっぽどオンライン化したい特定の教材がない限り、既存のものを使うのがよいと思う。インターフェース言語は、現段階ではまだ英語とスペイン語のみ。ホーム画面から、上タブ「Interactive worksheets」→左欄「French」→「Français Langue Étrangère (FLE)」と進むと、文法事項やテーマによって細分化された、多くの練習問題が出てくる。問題は、誤植等ないか事前にチェックする必要があること。検索結果の表示順を「Most popular first」にすれば、ある程度の信憑性はあるだろう。

③ Favoriser les interactions à l'oral

外国語学習が、母国語から外国語への単なる移しかえ（語彙のレベルだけでなく習慣や行動様式においても）に終わらないためには、その外国語特有の社会文化的特徴を理解し実践する必要があるという視点のもと、外国語運用の第五の技能とも呼ばれる「相互交流力」に焦点をあてたモジュール。最後の数回は3～4人のグループになり、教室を出て、任意のシチュエーションでフランス語ネイティブ話者との会話を録画（録音）し、それをもとに *fiche pédagogique* を作成、発表する流れだった。観光案内所、ジェラート屋、病院の電話予約といった他グループの設定があるなか、わたしたちの班は陽気なベネズエラ人教員の発案のもと、大学近くの書店で録画を行った。フィリップ・ドレルムのエッセイを買いにきた女性客が、店の主人と簡単なやりとりをし、購入するまでの様子だ。Langer 氏の意図は、こうして撮った動画などを、各教員が自国に帰ったあと、それぞれの現場で活用できるようにすることだった。学習者に教室内でなんらかのロールプレイングをさせるといふことはかねてからされているが、それを動画に撮らせ、全員で鑑賞するというのは、また違った盛り上がりを見せるに違いない（教員同士でも、それぞれのパーソナリティが垣間見える映像や音声に接するのは、大いに楽しかった）。以下に紹介するのは、その他モジュール中に知った、相互交流力に関するツールやゲームである。

CLAPI-FLE : http://clapi.ish-lyon.cnrs.fr/FLE/projet_clapi_fle.php

さまざまなシチュエーションにおける自然な会話を動画化・教材化したデータベース。本モジュール中の発表は、ここにあるいずれかのファイルを参考にするよう指示があった。トランスクリプションがついているが、動画はほぼ *documents authentiques* のような感じで、A1 とあるものでも難易度はやや高いかもしれない。また日本にはすでに、東京外国語大学言語モジュールという、より日本人向けのプラットフォームがあることも事実だ。

Flipgrid : https://auth.flipgrid.com/signin?redirect_url=https://my.flipgrid.com/me

あるお題に対する回答を、学習者に動画で撮影させ、投稿させることができるツール（ex. 自己紹介、初対面の人同士の会話）。アップロードされた動画に対して、参加者間でコメントを投稿することもできる。日本人研修生のひとりが実際に授業で活用しており、彼女の話が非常に参考になった。

Questionnaire de Proust：作家マルセル・プルーストが好んだという、有名なアンケートに着想を得た質問ゲーム。音、匂い、場所、人物、本、映画など、各人の好みに関する 15 個ほどの質問事項が書かれた表を用意する。学習者はその表を手し、各項目の質問文をみずから考え（事前にメモしておいてもいい）、仲間の誰かに質問をする。答えてくれた仲間の名前と回答を記入する。質問は一人に対しひとつ。表を埋めながら、質問文の形式に親しみ、仲間のパーソナリティを知っていく。

(例)

	Prénom	Question	Réponse
Le son préféré	MARTINA	Quel son est-ce que tu préfères ?	La rivière
L'odeur préférée	CARLOS	Quelle est ton odeur préférée ?	La mangue

« Easy French » : <https://www.youtube.com/c/EasyFrench/videos>

フランス人やフランス語に関する豆知識を、街頭インタビューやロールプレイングを交え、楽しく学べる動画を投稿している YouTube チャンネル。フランス語と英語の字幕つき。相互交流力の伸長という面では、カフェで飲み物を注文する、商店で食材を買う、デートをする、旅行時の必須フレーズ、といった動画がよいだろう。

3. 宿泊施設

研修が行われるフランシュ＝コンテ大学文学部キャンパスまで徒歩 15 分弱で通える、Zenitude Hôtel - Résidences La City に滞在した。部屋には Wi-Fi、簡易シャワールーム、トイレ、全身シャンプー、タオル、冷蔵庫、電子レンジ、電気ケトル、IH コンロ、調理器具、食器用洗剤、コーヒーメーカー、テレビ、扇風機等が備えつけられていた（個人的に持ってくればよかったと思ったのはドライヤーくらい、部屋により若干仕様が異なるようなので注意）。ランドリールームがフロント階にあり、洗濯が 4€、乾燥が 2€だった。なおわたしは、ランドリールームの開閉時間が決まっていることを失念し、洗濯物を乾燥機に入れっぱなしのまま一夜過ごしてしまった（機械は自動で止まったので問題はなかったが…）。



4. 滞在費の受取り

滞在費の受取りは、国際送金サービス・ウエスタンユニオンで行えた。到着後、キャンパス・フランスから照会番号がメールで送られてくるので、パスポートをもって任意の店舗に行けばいい。研修後、パリの支店で受給することもできた（要確認）。またフランス到着日、社会保険を受けるのに必要とのことで、到着証明（パスポートの入国スタンプ、航空チケットの画像）をキャンパス・フランスに送った。

5. 余暇の過ごし方

1週目の土曜日を利用して、かねてから気になっていたスイス・ベルン市のパウル・クレー・センターと、ベルン美術館を訪れることができた。行きはBlaBlaCarという相乗りサービスを利用し、帰りは列車で、乗り継ぎなどで片道3~4時間はかかる旅だったが、とんぼ返りになってしまったことをのぞきおおむね満足している（なおベルンでは8月中の土曜日、市内の多くの美術館が無料であった）。研修生のなかにスイス人の男性がいて、スイス国鉄のアプリなどを教えてもらい、助かった。

その翌日は、前日に無謀な日帰り旅行をしてしまった自分を若干呪いながら、オ・ドゥー地方への遠足に参加した。ここでは、CLAで夏季の語学研修に参加中の（やはり国籍も年齢もさまざまな）別グループとの出会いがあり、なかでも落語好きで日本語を独学で学んでいるという、バーレーン人の青年との会話が弾んだ。

CLAのカードで割引鑑賞できる映画の上映会が、滞在中に二度（水曜日の晩）あり、とくに思いがけず*Les Olympiades*を見られたことは幸運だった（『パリ13区』のことだと原題では気がつかなかった）。上映は大学近くのLe Petit Kursaalという、洞窟かワイン蔵を思わせる涼しい地下劇場で行われ、上映前に劇場関係者が内容や監督について紹介するというスタイルなのも一興だった。

ブザンソン美術館には、現地を発つ当日の朝にようやく行けたのだが、思いのほか見どころが多く、かけ足の見学となってしまった。クールベの「*La somnambule*」をぜひ生で見たかったが、貸出し中なのか残念ながら展示されていなかった。また研修後、私用でチェコ共和国に行った際、研修生のなかにいたチェコ人の女性（しかも滞在予定のブルノ在住）と連絡をとり、現地で再会することができた。この上なく気さくで親切なベテラン高校教員、かつ四児の母である。いずれも研修に参加しなければなかった出会いと体験で、感謝しかない。

最後になったが、こうした経験すべてを可能にしてくれたフランス語教育学会、フランス語フランス文学会、国内スタージュ運営委員会の皆さま、在日フランス大使館とりわけ文化部の萩尾様、キャンパス・フランス、CLAの講師およびスタッフの皆さま、なにより苦楽をともにしてくれた日本人研修生のふたりに、この場を借りて心より御礼申し上げます。



2022年フランス海外スタージュ報告書

上智大学 メランベルジェ愛エメ

2022年8月1日から11日まで、フランス、ブザンソンのフランシュ=コンテ大学 付属応用言語センター (CLA) にて開催されたフランス語教育研修に参加させていただきました。ここでは、私自身が研修中に参加した授業やアトリエ、イベントの内容を簡単に紹介した上で、個人的に気づいたことや、今後スタージュに参加する方々に有益になると思われる細かな情報を記したいと思います。

1. 授業とアトリエ

以下は、本スタージュの時間割です。一つのコマに二つの授業が書かれている場合は、どちらかを選択することになります。また、4時間目にある「Forum」は全ての日程の中で最低3コマ参加することが求められます。

Programmation Modules Quinzaine 3 (Semaine 1 du 1^{er} au 5 août)

	lundi 1 ^{er} août	mardi 2 août	mercredi 3 août	jeudi 4 août	vendredi 5 août
8h30 - 10h	ACCUEIL <i>amphi Petit (voir plan p.11)</i>	Enseigner la grammaire autrement <i>C.Langer</i> Favoriser les pratiques ludiques et créatives <i>F.Beissel</i>	Enseigner la grammaire autrement <i>C.Langer</i> Favoriser les pratiques ludiques et créatives <i>F.Beissel</i>	Enseigner la grammaire autrement <i>C.Langer</i> Favoriser les pratiques ludiques et créatives <i>F.Beissel</i>	Enseigner la grammaire autrement <i>C.Langer</i> Favoriser les pratiques ludiques et créatives <i>F.Beissel</i>
10h30 - 12h	Inverser la classe avec des ressources numériques <i>C.Langer</i> Pratique de l'écriture créative <i>F.Beissel</i>	Inverser la classe avec des ressources numériques <i>C.Langer</i> Pratique de l'écriture créative <i>F.Beissel</i>	Inverser la classe avec des ressources numériques <i>C.Langer</i> Pratique de l'écriture créative <i>F.Beissel</i>	Inverser la classe avec des ressources numériques <i>C.Langer</i> Pratique de l'écriture créative <i>F.Beissel</i>	
13h30 - 15h	Favoriser les interactions à l'oral <i>C.Langer</i> Enseigner le FLE aux enfants <i>F.Vermeersch</i>	Favoriser les interactions à l'oral <i>C.Langer</i> Enseigner le FLE aux enfants <i>F.Vermeersch</i>	Favoriser les interactions à l'oral <i>C.Langer</i> Enseigner le FLE aux enfants <i>F.Vermeersch</i>	Favoriser les interactions à l'oral <i>C.Langer</i> Enseigner le FLE aux enfants <i>F.Vermeersch</i>	
15h30 - 17h	Visite médiathèque <i>6 rue Gabriel Plançon 25000 Besançon (niveau zéro + labo 007)</i>	Forum Vous avez dit « Langue de bois » ? <i>C.Langer</i> Stratégie d'apprentissage et Gestion du stress 1/2 <i>M.Vitorou</i>	Forum Animer ses cours avec des ressources propres <i>C.Ramseyer</i> Stratégie d'apprentissage et Gestion du stress 2/2 <i>M.Vitorou</i>	Forum Si on chantait ? Chanson française et francophone <i>M.Vitorou</i>	

Programmation Modules Quinzaine 3 (Semaine 2 du 8 août au 12 août)

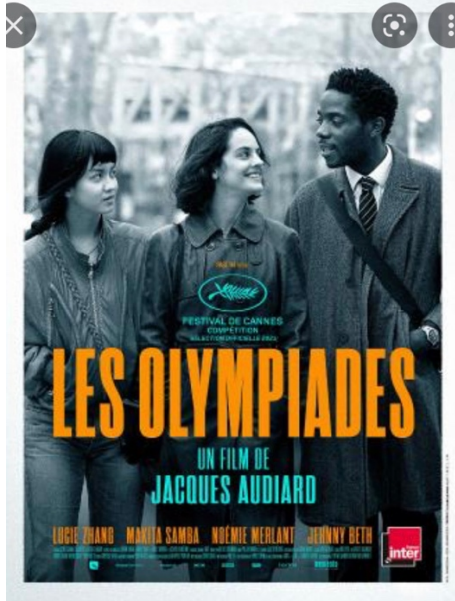
	lundi 8 août	Mardi 9 août	Mercredi 10 août	Jeudi 11 août	Vendredi 12 août
8h30 - 10h	Enseigner la grammaire autrement <i>C.Langer</i> Favoriser les pratiques ludiques et créatives <i>F.Beissel</i>	Enseigner la grammaire autrement <i>C.Langer</i> Favoriser les pratiques ludiques et créatives <i>F.Beissel</i>	Enseigner la grammaire autrement <i>C.Langer</i> Favoriser les pratiques ludiques et créatives <i>F.Beissel</i>	Enseigner la grammaire autrement <i>C.Langer</i> Favoriser les pratiques ludiques et créatives <i>F.Beissel</i>	
10h30 - 12h	Inverser la classe avec des ressources numériques <i>C.Langer</i> Pratique de l'écriture créative <i>F.Beissel</i>	Inverser la classe avec des ressources numériques <i>C.Langer</i> Pratique de l'écriture créative <i>F.Beissel</i>	Inverser la classe avec des ressources numériques <i>C.Langer</i> Pratique de l'écriture créative <i>F.Beissel</i>	Inverser la classe avec des ressources numériques <i>C.Langer</i> Pratique de l'écriture créative <i>F.Beissel</i>	
13h30 - 15h	Favoriser les interactions à l'oral <i>C. Langer</i> Enseigner le FLE aux enfants <i>F. Vermeersch</i>	Favoriser les interactions à l'oral <i>C. Langer</i> Enseigner le FLE aux enfants <i>F. Vermeersch</i>	Favoriser les interactions à l'oral <i>C. Langer</i> Enseigner le FLE aux enfants <i>F. Vermeersch</i>	Favoriser les interactions à l'oral <i>C. Langer</i> Enseigner le FLE aux enfants <i>F. Vermeersch</i>	
15h30 - 17h	Forum Votre voix, une amie à protéger 1/3 <i>M. Vitorou</i>	Forum Votre voix, une amie à protéger 2/3 <i>M. Vitorou</i>	Forum Votre voix, une amie à protéger 3/3 <i>M. Vitorou</i>		

私は、主に C.Langer 先生の授業を受けました。Langer 先生の授業は、フランス語を教える際に使える様々な *Outils numériques* を紹介しながら実際に使用してみるという形式のものが多かったです。たとえば、授業で使えるゲーム形式のアプリや、Youtube 動画、オンライン上のプラットフォームなど、様々なサイトやツールを教えてくださいました。これらを具体的に知ることができた上、実際に使ってみる経験をしたことで、授業で用いるイメージを作ることができ、とても有益だったと思います。また、これらのツールの情報は全て Moodle で共有され、かつこの Moodle は 1 年間解放してくださっているため、日本に帰国してからもいつでも内容を確認することができ、とても便利に感じています。

授業以外の「Forum」では、たとえば *Si on chantait ?* というフランス語の歌を用いたアトリエに参加しました。自分自身、歌を歌うことが好きですが、そうしたフランス語の歌をどのように授業で使うことができるか考えるきっかけになると共に、アトリエに参加したメンバーとフランス語の歌を歌うことができ、とても楽しい時間を過ごしました。

2. イベント

本ステージには、様々なイベントも用意されていました。たとえば、平日の夜に 3€ で映画を観ることができる日があったり、週末には希望するメンバーでスイスの国境近くのお城を観光するイベントもありました。



映画館で観ることができた映画↑



スイス国境付近にある Château de Joux から見た景色↑

また、最終日前日の夜には広い公園で皆でピクニックをしました。フランスの夜は明るく涼しく、とても楽しい時間を過ごすことができます。

本ステージには世界各国からフランス語を教えている、あるいは教える予定のある研修生が集まります。研修生同士で、それぞれの国でフランス語を教える際にしている工夫を共有するとともに、各国の文化も教え合い、多様な文化についてさらに知見が深まったように感じました。



皆でピクニックを楽しむ様子↑

イベントではないですが、毎日のスタージュは4限で終わるため、夕方以降は自由時間になります。私はこの時間にブザンソンの街を探索したり、図書館に行ったりしていました。また、ブザンソンで有名な Musée du temps（時計博物館）もおすすめです。様々な時代の美しい時計を見ながら時計の歴史を知ることができるとともに、ブザンソンの歴史も知ることができます。



3. 気づいたこと

スタージュの内容そのものとは関係ないですが、スタージュに参加して気づいたこととして、「毎日暑くて大変だった！」ということがあります。年にもよると思いま

すが、本年の8月はブザンソンの地域はとても暑かったです。大学の教室にも寮にも扇風機はありますが、冷房はありません。もちろん日本の猛暑とは異なり、湿気が少なく、朝はとても涼しいのですが、日中の日差しの中はとても暑いのです。寮から大学の教室までは、徒歩15分ほどですが、毎日、暑い中を歩いて行き来するのはなかなか大変です。また、お昼時は近くに学食がない（学食自体はあるのですが、夏休みは開いていないのです）ので、お昼時の暑い中お昼ご飯を買いに行ったり食べに行ったりすることも大変でした。水筒や保冷剤（寮のお部屋にある冷蔵庫には小さな冷凍庫がついていました）といった暑さ対策になるものや日傘（フランスでは誰もさしていないので恥ずかしいのですが）や日除けとして使えるスカーフなどを用意したほうがいいと思います。

4. 渡航前に気になっていたこと

研修に参加する前、先輩方の報告書を読み、事前に様々な情報を得ていましたが、それでも、事前にはわからずに気になっていたこともいくつかありました。個人的に気になっていただけなので、今後スタージュに参加される皆さんのお役に立つかはわかりませんが、記しておこうと思います。

まず、渡航前に、寮が何人部屋になるか気になっていました。スタージュに参加する日本人メンバーは本年は3人（全員女子）であることは知っていましたが、どのような部屋割りになるかは到着までわかりませんでした。もしかしたら、これも年によって異なるかもしれませんが、私たちはそれぞれ一人部屋を与えていただきました。一人には十分に広めのお部屋でしたので、とても快適に過ごすことができました。（余談ですが、3人で一つのお部屋に集まり、夕飯を共にすることがあったのもとてもいい思い出です。）

最終日の移動についても個人的には気になっていました。私はスタージュが終わった後、親戚に会うため、パリに戻るのではなくミュールーズという街に移動することを希望していました。その旨を Campus France にお伝えしたところ、パリ行きではなくミュールーズ行きの TGV のチケットを購入していただくことができました。また、ミュールーズに行くことをお伝えした際、「研修後すぐに」出発が可能であればそのようにしたいと申し出たところ、最終日当日の夜の TGV を予約してくださいました。このように、研修後すぐ出発することもできますが、最終日にはフェアウェルパーティーのようなものがイベントとして用意されますし、少し急いで準備をして出発することになるので、寮に一泊して次の日に出発する形もおすすめです。いずれにしても、かなり柔軟に帰りのチケットを用意してくださいますので、ご自身の要望を最初からお伝えするのが良いと思います。

単位取得に追われる大学生のようですが、研修中にテストはあるのか…といったことも気になっていました。研修中は、テストや必須の宿題などはありませんでした。それよりも、毎日元気にスタージュに参加することの方が重要です。（参加したスタ

ーージュの名前と時間数が最終日に渡される attestation に記入されます。この attestation は最終日に手渡しもされますし、メールでも pdf で送られてきます。) 先に時間割を載せましたが、本ステージは毎日1～4限(フォーラムがない日は1～3限) みっちり研修が行われます。暑さで体力も消耗します。テストや宿題の心配はせず、毎日元気に授業に参加して授業中に集中するのがおすすめです。

5. 最後に

本ステージに参加して、フランス語を教える際に役立つメソッドを具体的に学ぶことができました。また、様々な国で先生として活躍する仲間たちとも出会うことができ、彼らと色々なイベントに参加することもでき、とても充実した日々を送ることができました。このような機会を与えていただいたことに、学会の皆さま、運営委員会の皆さま、そして Campus France の皆さまに感謝いたします。今後、この研修で得た知識や経験を活かして、自身の教育活動に励んでいきたいと思っております。